

令和 8 年度
「まちかどコメンテーター」アンケート
調査報告書

鹿児島市

【第 1 回テーマ】

- 1 認知症の正しい理解について（認知症支援室）
- 2 本市の農林水産業について（農政総務課）
- 3 食品ロスの削減について（資源政策課）

目 次

I	調査の概要	1
II	認知症の正しい理解について	4
III	本市の農林水産業について	13
IV	食品ロスの削減について	20

I 調査の概要

1 まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様に「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的としています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住んでいる、または通勤・通学する18歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民3,000人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3) 任期

令和8年6月1日～令和9年5月31日

(4) 人数

517人（第1回調査実施時点）

(5) 所属課

市民局 市民文化部 市民協働課

2 第1回調査の概要

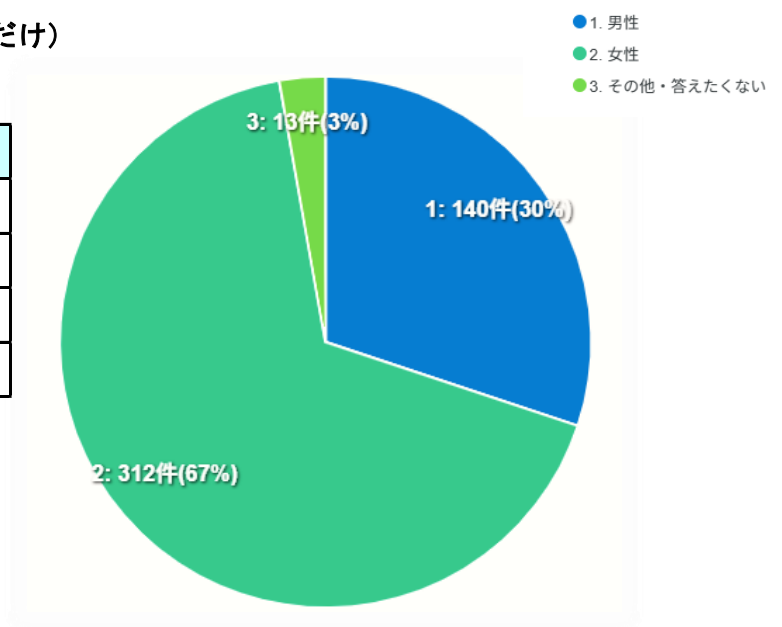
(1) 調査概要

テーマ／担当課	認知症の正しい理解について	認知症支援室
	本市の農林水産業について	農政総務課
	食品ロスの削減について	資源政策課
調査期間	令和8年6月1日（月）～6月22日（月）	
回答率	89.9%（465人）	

(2) 回答者属性

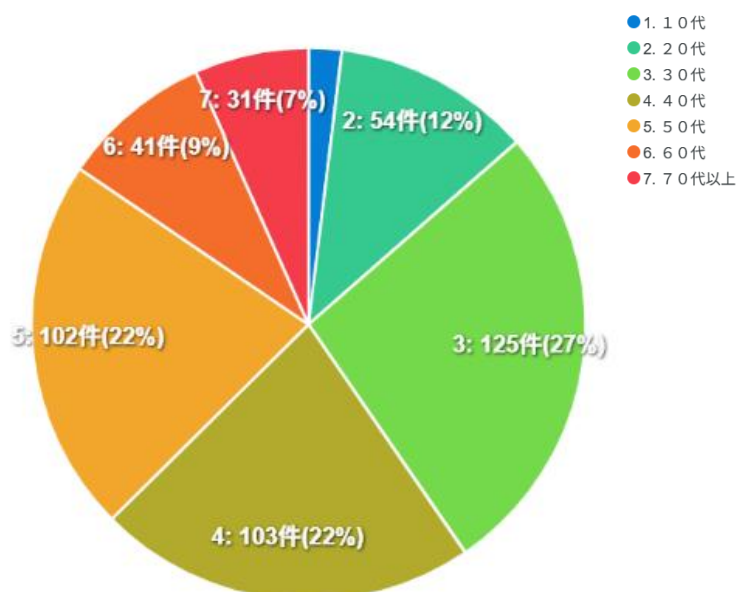
問1 性別を選択してください。（ひとつだけ）

選択肢	回答数	割合
男性	140	30.1%
女性	312	67.1%
その他・答えたくない	13	2.8%
サンプル数	465	100.0%



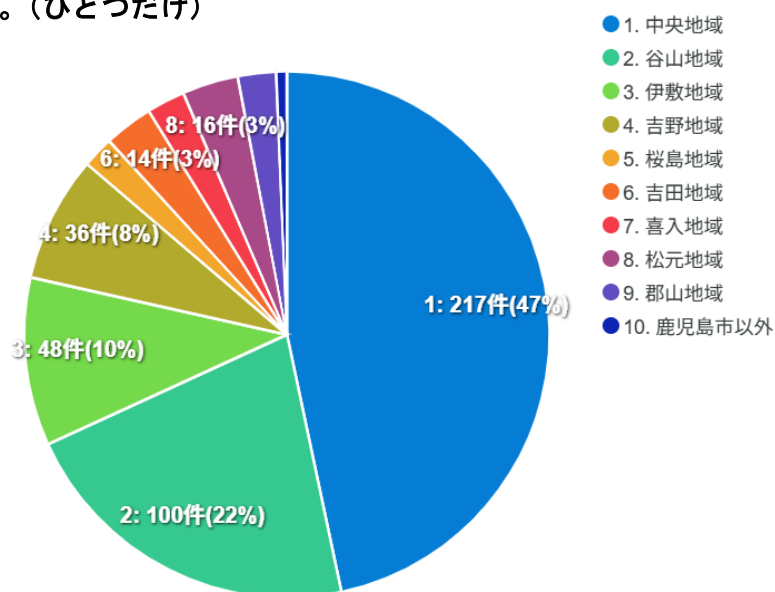
問2 年代を選択してください。（ひとつだけ）

選択肢	回答数	割合
10代	9	1.9%
20代	54	11.6%
30代	125	26.9%
40代	103	22.2%
50代	102	21.9%
60代	41	8.8%
70代以上	31	6.7%
サンプル数	465	100.0%



問3 お住まいの地域を選択してください。(ひとつだけ)

選択肢	回答数	割合
中央地域	217	46.7%
谷山地域	100	21.5%
伊敷地域	48	10.3%
吉野地域	36	7.7%
吉田地域	14	3.0%
桜島地域	9	1.9%
喜入地域	11	2.4%
松元地域	16	3.4%
郡山地域	11	2.4%
鹿児島市以外	3	0.6%
サンプル数	465	100.0%



3 本報告書を見る際の注意事項

- ・ 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、百分比の合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問は、百分比の合計が100%を超える場合があります。
- ・ 設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。
- ・ 不適切な表現がみられた意見については、一部削除しています。

Ⅱ 認知症の正しい理解について

1 調査の目的

急速な高齢化に伴って、国の推計では 2040 年（令和 22 年）には高齢者の 3.3 人に 1 人は、認知症もしくは MCI（軽度認知障害）になると見込まれ、鹿児島市においても認知症高齢者が増加傾向にあります。このような状況を踏まえ、市では令和 7 年 9 月に「認知症オレンジシティかごしま」を宣言し、認知症の理解促進や早期発見・早期対応、本人や家族の視点を重視した取組を推進していくこととしています。

今や誰もが認知症になり得るという状況から、一人一人が認知症を自分事として正しく理解していくための取組を推進する必要がある、今後の市の施策の参考とするためにアンケートを実施しました。

2 調査結果を受けて担当課（認知症支援室）からのコメント

認知症の正しい理解について、多くの回答やご意見をいただき、誠にありがとうございます。

まず、地域の生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人の望む生活が継続できているかについてお尋ねしたところ、「できていない」が、「できている」を大きく上回っており、その理由としては、認知症に対する周囲の理解が十分でないこと、参加できる地域活動、見守り支援などの体制の整備が追い付いていないなどが挙がっています。

次に、認知症について知りたいことは、早期発見のポイント、受診の目安、初期症状や予防方法などで、早期発見のメリットとしては、早い段階で病気を理解することで生活上の障害を軽減できる、病気の進行を遅らせられることとなっています。

また、鹿児島市が実施する認知症に関する取組の中では、「チームオレンジ」や「認知症サポーター養成講座」が多く知られており、自分や家族が認知症になった時には、7 割を超える方がチームオレンジに「参加したい・してほしい」と答えています。

自分や家族が認知症になった場合に安心して、希望を持って暮らし続けるために、医療・介護サービス制度が多くの人に理解され、生活の見通しをつけることができること、本人だけでなく介護する家族への支援もあることが大切であると答えた方が多い状況でした。

今回のアンケート結果を踏まえ、市民の皆様が認知症であることを安心して伝えることができ、住み慣れた地域で自分らしく生きることができるよう、今後も認知症に関する取組を推進してまいります。

3 調査結果

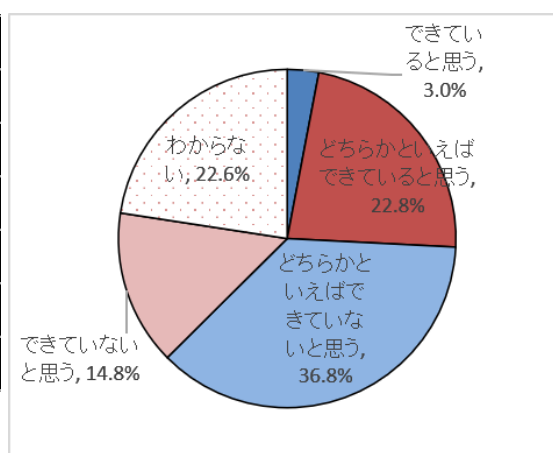
問4 国の「認知症施策推進基本計画」において示された「新しい認知症観」についてお尋ねします。

新しい認知症観とは「認知症になったら何もできなくなるのではなく、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という考え方です。

あなたは、地域の生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人の望む生活が継続できていると思いますか。(ひとつだけ)

「できていると思う(3.0%)」と「どちらかといえばできていると思う(22.8%)」を合わせた『できている』が25.8%、「どちらかといえばできていないと思う(36.8%)」と「できていないと思う(14.8%)」を合わせた『できていない』が51.6%で、「わからない」が22.6%となっています。

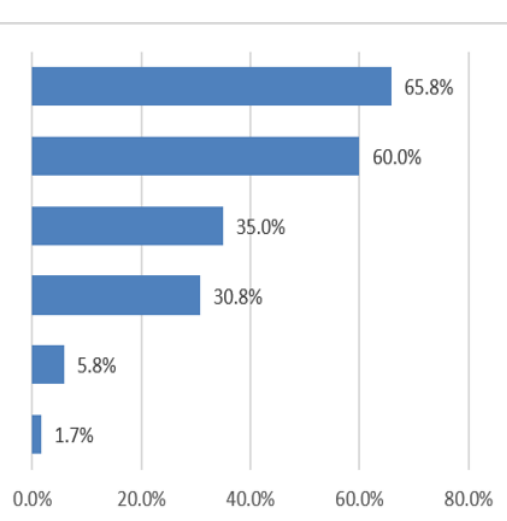
選択肢	回答数	割合
できていると思う	14	3.0%
どちらかといえばできていると思う	106	22.8%
どちらかといえばできていないと思う	171	36.8%
できていないと思う	69	14.8%
わからない	105	22.6%
サンプル数	465	100.0%



問5 問4で「できていると思う」「どちらかといえばできていると思う」とお答えになった方にお尋ねします。その理由をお答えください。(3つまで)

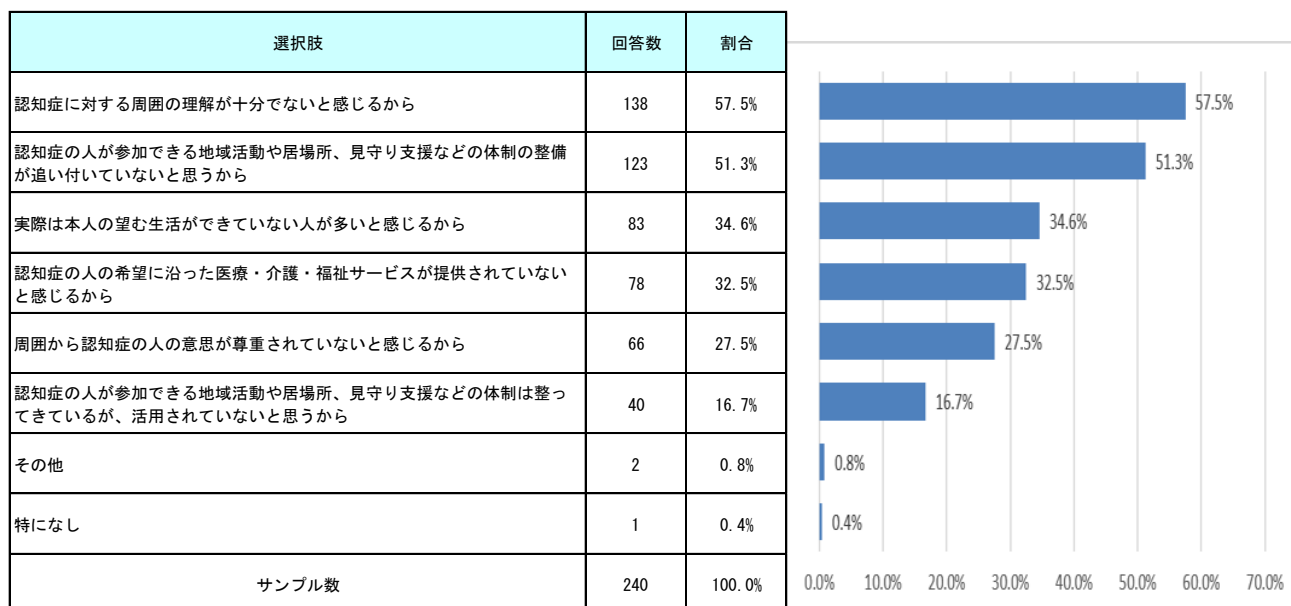
「認知症の人の希望に沿った医療・介護・福祉サービスが提供されているから」が65.8%で最も多く、次いで「認知症に対する周囲の理解が進んできていると思うから」が60.0%、「周囲が認知症の人の意思を尊重していると感じるから」が35.0%となっています。

選択肢	回答数	割合
認知症の人の希望に沿った医療・介護・福祉サービスが提供されているから	79	65.8%
認知症に対する周囲の理解が進んできていると思うから	72	60.0%
周囲が認知症の人の意思を尊重していると感じるから	42	35.0%
認知症の人が参加できる地域活動や居場所、見守り支援などの環境が整い、活用されていると思うから	37	30.8%
「実際にできている人」が増えてきていると感じるから	7	5.8%
特になし	2	1.7%
サンプル数	120	100.0%



問6 問4で「どちらかといえばできていないと思う」「できていないと思う」とお答えになった方にお尋ねします。その理由をお答えください。（3つまで）

「認知症に対する周囲の理解が十分でないと感じるから」が57.5%で最も多く、次いで「認知症の人が参加できる地域活動や居場所、見守り支援などの体制の整備が追いついていないと思うから」が51.3%、「実際は本人の望む生活ができていない人が多いと感じるから」が34.6%となっています。



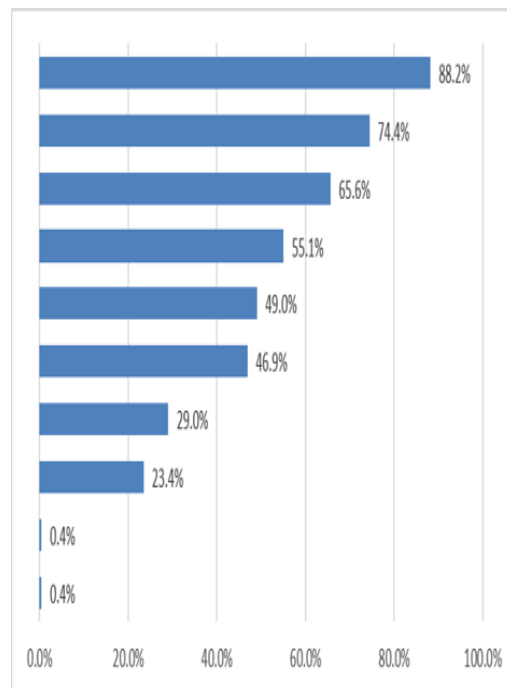
【その他の回答】

- 認知症の人の意思や希望の表現が難しい場合があり、周りの支援や地域活動が認知症の人が望む内容なのかが分からないから。また支援にあたって、周囲が疲弊している状況を多く目にし、認知症の人が望んでいたことなのかが疑問であるから。

問7 あなたが認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか。(いくつでも)

「家族に身体的・精神的な負担をかけるのではないか」が 88.2%で最も多く、次いで「買い物や車の運転など、これまで出来ていたことができなくなるのではないか」が 74.4%、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」が 65.6%となっています。

選択肢	回答数	割合
家族に身体的・精神的な負担をかけるのではないか	410	88.2%
買い物や車の運転など、これまで出来ていたことができなくなるのではないか	346	74.4%
家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか	305	65.6%
家族や、大切な思い出を忘れてしまうのではないか	256	55.1%
外出した際に家への帰り道が分からなくなるのではないか	228	49.0%
経済的に苦しくなるのではないか	218	46.9%
どこに相談すればいいか分からないのではないか	135	29.0%
差別や偏見を受けるのではないか	109	23.4%
その他	2	0.4%
不安なことや心配なことはない	2	0.4%
サンプル数	465	100.0%



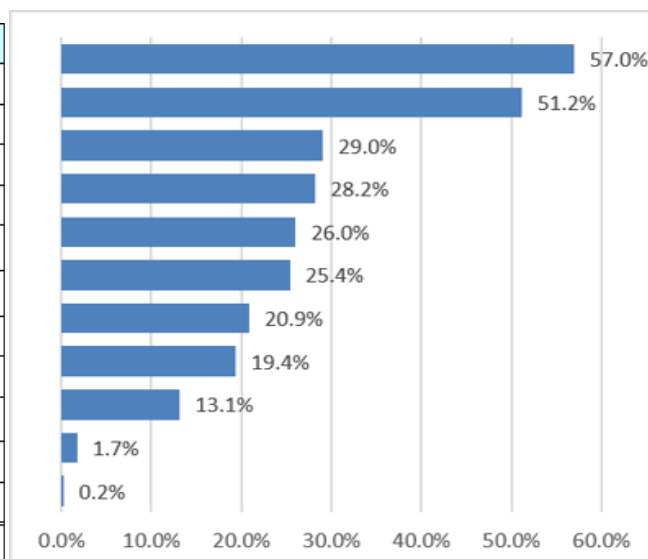
【その他の回答】

- 生きがいを感なくなる

問8 認知症について知りたいことは何ですか。(3つまで)

「早期発見のポイント、受診の目安、初期症状」が 57.0%で最も多く、次いで「認知症の予防方法」が 51.2%、「医療や介護に関する相談窓口」が 29.0%となっています。

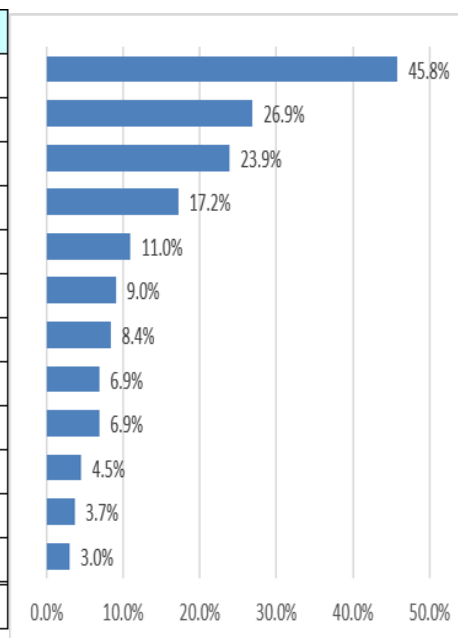
選択肢	回答数	割合
早期発見のポイント、受診の目安、初期症状	265	57.0%
認知症の予防方法	238	51.2%
医療や介護に関する相談窓口	135	29.0%
認知症の人を家族に持つ場合の対応について	131	28.2%
訪問介護などの在宅サービスや、見守り支援に関する情報	121	26.0%
本人に代わり、財産管理や契約などの法的手続きを行う制度に関すること(成年後見制度など)	118	25.4%
グループホームなどの施設入所に関する情報	97	20.9%
認知症の人への接し方	90	19.4%
認知症の人も気軽に通える「掘り所」(チームオレンジ、認知症カフェ等)の情報	61	13.1%
特になし	8	1.7%
その他	1	0.2%
サンプル数	465	100.0%



問 9 鹿児島市が実施する認知症に関する取組の中で知っているもの、聞いたことがあるものについてお答えください。(いくつでも)

「どれも知らない・聞いたことがない」が 45.8%で最も多く、次いで「チームオレンジ」が 26.9%、「認知症サポーター養成講座」が 23.9%となっています。

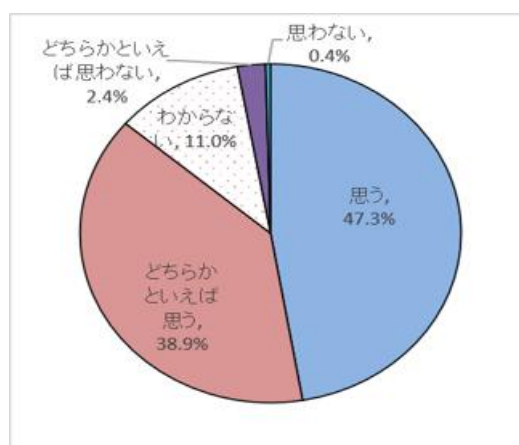
選択肢	回答数	割合
どれも知らない・聞いたことがない	213	45.8%
チームオレンジ	125	26.9%
認知症サポーター養成講座	111	23.9%
認知症おうえんナビ	80	17.2%
認知症等見守りメイト活動	51	11.0%
認知症あんしんセミナー	42	9.0%
認知症あんしん相談ガイドブック（認知症ケアパス）	39	8.4%
認知症介護の電話相談	32	6.9%
認知症介護教室	32	6.9%
認知症おかえりサポート事業	21	4.5%
GPS加入費用等の助成	17	3.7%
認知症本人ミーティング・家族交流会	14	3.0%
サンプル数	465	100.0%



問 10 ご自身やご家族等が認知症になったとき、または疑いがあるとき「認知症おうえんナビ」を利用または案内したいと思いますか。(ひとつだけ)

「思う(47.3%)」と「どちらかといえば思う(38.9%)」を合わせた『思う』が 86.2%で、「どちらかといえば思わない(2.4%)」と「思わない(0.4%)」を合わせた『思わない』が 2.8%、「わからない」が 11.0%、となっています。

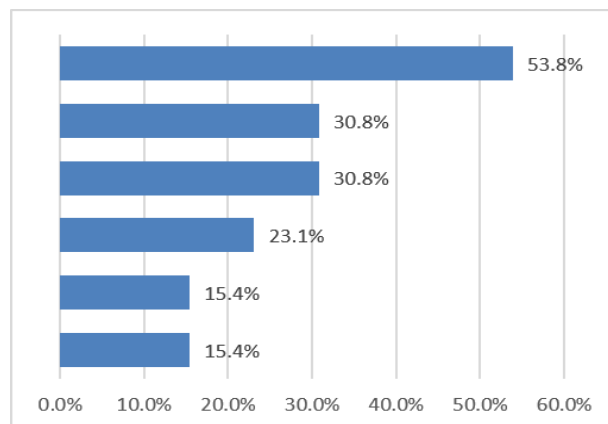
選択肢	回答数	割合
思う	220	47.3%
どちらかといえば思う	181	38.9%
わからない	51	11.0%
どちらかといえば思わない	11	2.4%
思わない	2	0.4%
サンプル数	465	100.0%



問 1 1 問 1 0で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した方にお尋ねします。どのコンテンツが充実すれば、このサイトを利用または案内すると思いますか。(3つまで)

「相談先案内」が 53.8%で最も多く、次いで「気になる症状チェック」、「講座・イベント」が 30.8%となっています。

選択肢	回答数	割合
相談先案内	7	53.8%
気になる症状チェック	4	30.8%
講座・イベント	4	30.8%
特になし	3	23.1%
予防10か条	2	15.4%
その他	2	15.4%
サンプル数	13	100.0%



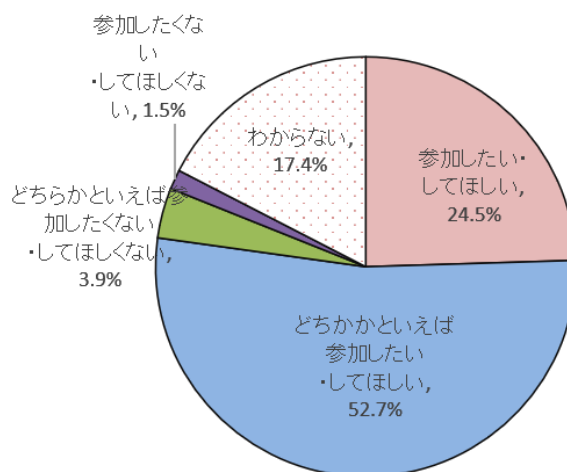
【その他の回答】

- 認知症に対する認識、偏見の是正

問 1 2 自分や家族等が認知症になったとき、「チームオレンジ」に参加したい、または参加してほしいと思いますか。(ひとつだけ)

「どちらかといえば参加したい・してほしい(52.7%)」と「参加したい・してほしい(24.5%)」を合わせた『参加したい・してほしい』が 77.2%で、「どちらかといえば参加したくない・してほしくない(3.9%)」と「参加したくない・してほしくない(1.5%)」を合わせた『参加したくない・してほしくない』が 5.4%、「わからない」が 17.4%、となっています。

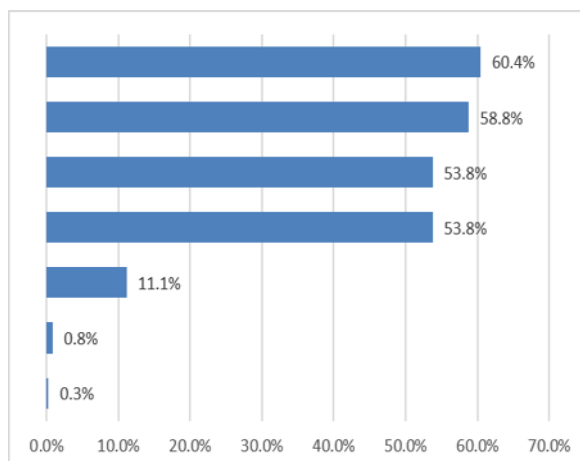
選択肢	回答数	割合
参加したい・してほしい	114	24.5%
どちらかといえば参加したい・してほしい	245	52.7%
どちらかといえば参加したくない・してほしくない	18	3.9%
参加したくない・してほしくない	7	1.5%
わからない	81	17.4%
サンプル数	465	100.0%



問 1 3 問 1 2 で「参加したい・してほしい」「どちらかといえば参加したい・してほしい」とお答えした方にお尋ねします。参加したい・してほしいと思う理由をお答えください。（3 つまで）

「自分と同じ境遇の方の思いを共有することができるから」が 60.4%で最も多く、次いで「いざというときに助け合ったり、見守などの支援を受けることができるから」が 58.8%、「地域や人とのつながりができるから」、「認知症について困ったときに相談でき、医療・介護や行政の支援につながるきっかけとなるから」が 53.8%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
自分と同じ境遇の方の思いを共有することができるから	217	60.4%
いざというときに助け合ったり、見守などの支援を受けることができるから	211	58.8%
地域や人とのつながりができるから	193	53.8%
認知症について困ったときに相談でき、医療・介護や行政の支援につながるきっかけとなるから	193	53.8%
活動の中で特技を披露するなど、誰かの役に立てるという実感をえられるから	40	11.1%
その他	3	0.8%
特になし	1	0.3%
サンプル数	359	100.0%



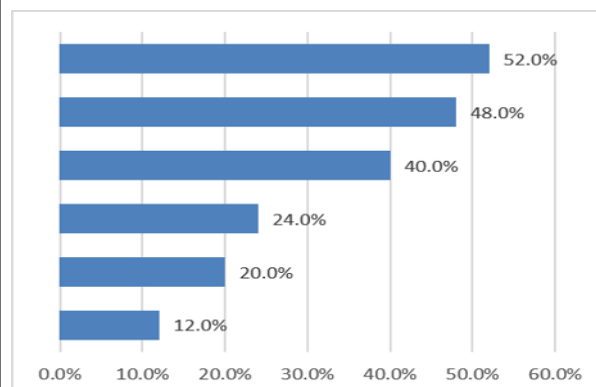
【その他の回答】

- 今いるコミュニティ以外に参加することで、自己肯定感があがると思う。
- 人と接して頭を使うことが健康的な生活につながる。
- 他人と接する刺激なども認知症状の遅延に効果的だと思われ、人と繋がるツールとして利用して欲しいと思うが、一方で対象者が負担を感じることで、うつ症状などにより認知症状が更に進む可能性があることから、地域と人との繋がりまでは望まないのではないかと考える。

問 1 4 問 1 2 で「参加したくない・してほしくない」「どちらかといえば参加したくない・してほしくない」とお答えした方にお尋ねします。参加したくない・してほしくないと思う理由をお答えください。（3 つまで）

「集団で行う地域活動よりも個別支援を希望しているから」が 52.0%で最も多く、次いで「他の参加者などに迷惑をかけるのではという不安があるから」が 48.0%、「移動や介助など外出自体が大変だと思うから」が 40.0%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
集団で行う地域活動よりも個別支援を希望しているから	13	52.0%
他の参加者などに迷惑をかけるのではという不安があるから	12	48.0%
移動や介助など外出自体が大変だと思うから	10	40.0%
認知症だということを知られたくないから	6	24.0%
できないことが増え、参加することで自信がなくなるのではと思うから	5	20.0%
その他	3	12.0%
サンプル数	25	100.0%



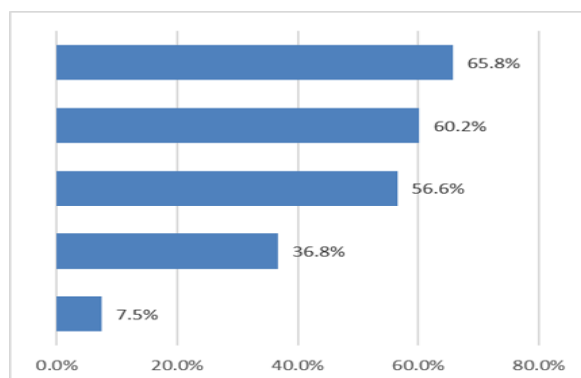
【その他の意見】

- 家族が認知症になった時は本人が望めば参加して欲しいが、私が認知症になった場合は他人と関わりたくないため参加したくない。
- 参加する時間的余裕や経済的余裕がない。

問 1 5 認知症は他の病気と同様に早期診断と早期対応が大切な病気です。早期発見により、メリットがあるとされていますが、知っていることをお答えください。(いくつでも)

「早い段階で病気を理解することで、生活上の障害を軽減でき、トラブルを減らすことに繋がる」が 65.8%で最も多く、次いで「病気の進行を遅らせることができる」が 60.2%、「これからの生活に備えることができる」が 56.6%の順となっています。

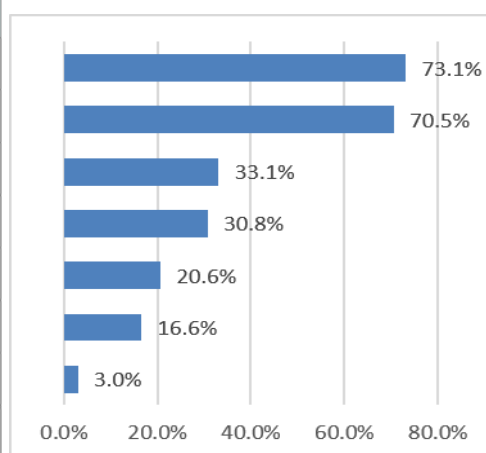
選択肢	回答数	割合
早い段階で病気を理解することで、生活上の障害を軽減でき、トラブルを減らすことに繋がる	306	65.8%
病気の進行を遅らせることができる	280	60.2%
これからの生活に備えることができる	263	56.6%
治療して治せるタイプの認知症がある	171	36.8%
知らない	35	7.5%
サンプル数	465	100.0%



問 1 6 もしあなたが、認知症の可能性があった場合、誰から受診を勧められたら医療機関を受診すると思いますか。(いくつでも)

「家族・親戚」が 73.1%で最も多く、次いで「医療機関（かかりつけ医等）」が 70.5%、「友人・知人」が 33.1%の順となっています。

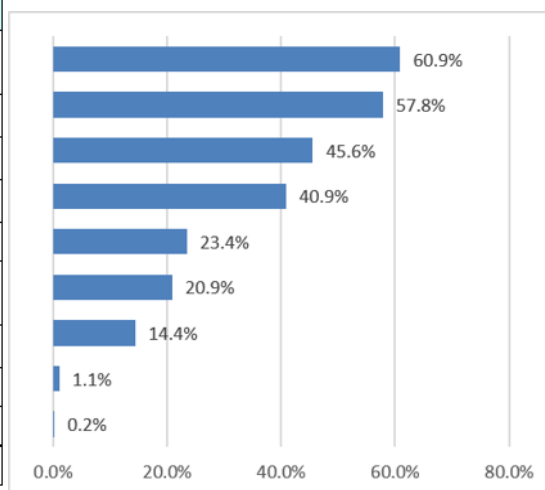
選択肢	回答数	割合
家族・親戚	340	73.1%
医療機関（かかりつけ医等）	328	70.5%
友人・知人	154	33.1%
自分で受診を決める	143	30.8%
介護保険施設等（ケアマネジャー等）	96	20.6%
市や地域包括支援センターなどの行政機関	77	16.6%
分からない	14	3.0%
サンプル数	465	100.0%



問 17 もし、自分や家族が認知症になった場合、安心して、希望を持って暮らし続けるためには何が大切だと思いますか。(3 つまで)

「利用できる医療・介護サービスの内容や費用、制度などが多くの人に理解され、今後の生活の見通しをつけることができること」が 60.9%で最も多く、次いで「本人だけでなく介護する家族への支援もあること」が 57.8%、「社会全体が認知症を正しく理解し、温かく見守ってくれること」が 45.6%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
利用できる医療・介護サービスの内容や費用、制度などが多くの人に理解され、今後の生活の見通しをつけることができること	283	60.9%
本人だけでなく介護する家族への支援もあること	269	57.8%
社会全体が認知症を正しく理解し、温かく見守ってくれること	212	45.6%
悩んだ時に話を受け止め、一緒に考え、寄り添ってくれる支援者がいること	190	40.9%
早期に気づき、受診につなげるための取組	109	23.4%
趣味や仕事などこれまで続けてきたこと、自分のやりたいことを続けるためのサポートがあること	97	20.9%
同じ立場の仲間同士が気軽に集まり、交流できる機会があること	67	14.4%
分からない	5	1.1%
その他	1	0.2%
サンプル数	465	100.0%



【その他の意見】

- 全て必要だと思います。

Ⅲ 本市の農林水産業について

1 調査の目的

農林水産業は、農林水産物の生産だけでなく、生態系の保全や防災機能、良好な景観の形成などの多くの役割を有しています。

しかし、高齢化による担い手減少、多様化する消費者ニーズへの対応や他産地との競争激化など、多くの課題を抱えております。

このような状況の中、農林水産業振興のあり方を示す「次期農林水産業振興プラン（仮称）」を令和8年度に策定する予定です。

そのため、鹿児島市の農林水産業の振興に向けて、皆様のご意見を伺い、施策に反映させたいと考えて、アンケートを実施しました。

2 調査結果を受けて担当課（農政総務課）からのコメント

市民の皆様が、農林水産物を購入する際に重視することや、自身の農林水産業への関わり方、農林水産業に仕事として関わる人を増やすために必要な取組などについて、どのようなお考えをお持ちか、お伺いさせていただきました。

野菜・果物・肉・魚などの生鮮食品を購入する際に重視することとして、「鮮度が良い」が73.8%で最も多く、次いで「国産である」が70.1%となりました。一方で、「市内産である」を選んだ方はわずか2.4%にとどまりました。

回答者ご自身が農林水産業に関わる事ができるものとしては、「市内産の農林水産物を積極的に購入する」が約半数で最も多く、次いで「イベント等で作業体験に参加する」が38.9%、「趣味や余暇の過ごし方として関わる」が31.2%となりました。また、約10%の方が、「副業や家事手伝いとして長期的に関わる」、「仕事として関わる」を選択されるなど、生産現場に参入していきたいとする方が一定数いることが伺えました。

農林水産業に仕事として携わる人を増やすための取組として「就業初期の収入の安定化への支援」を選んだ方が74.2%と突出して多く、次いで「仕事としての魅力の発信」が48.6%、「研修制度の充実」が37.4%の順となっています。

また、「国産や県産は意識するが市内産はあまり意識しない」や「市内産の農産物について詳しく知らない」といったご意見も多くいただき、認知度向上に向けた取組の必要性を再確認しました。

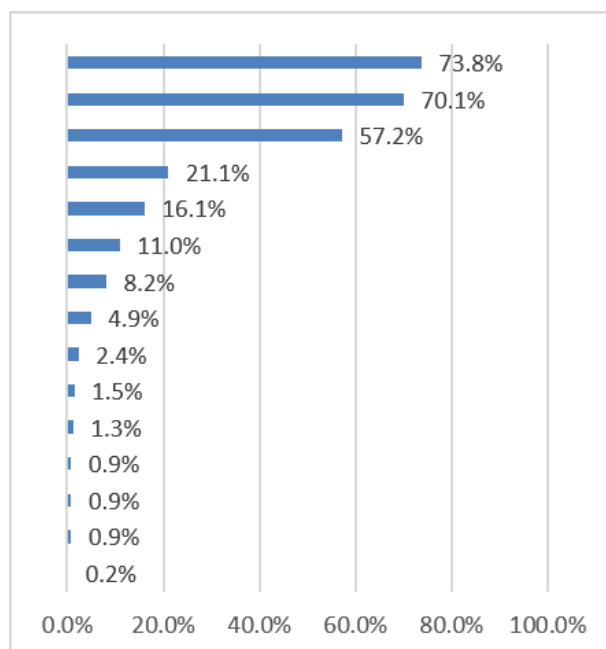
次期農林水産業振興プラン（仮称）の策定にあたり、今回いただいた貴重なご回答を十分踏まえながら、本市農林水産業振興に係る施策の検討を行ってまいります。

3 調査結果

問19 野菜・果物・肉・魚などの生鮮食品を購入する際、どのような点を重視しますか。 (3つまで)

「鮮度が良い」が73.8%で最も多く、次いで「国産である」が70.1%、「価格が安い」が57.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
鮮度が良い	343	73.8%
国産である	326	70.1%
価格が安い	266	57.2%
県内産である	98	21.1%
傷や虫食いが無い	75	16.1%
短期間で使い切れる量である	51	11.0%
調理がしやすい(カット加工済み等)	38	8.2%
有機農産物(オーガニック)である	23	4.9%
市内産である	11	2.4%
生産者	7	1.5%
GAP ^{※1} 認証されている	6	1.3%
地域ブランド化されている	4	0.9%
機能性成分 ^{※2} を多く含む農産物である	4	0.9%
特にこだわりはない	4	0.9%
その他	1	0.2%
サンプル数	465	100.0%



※1GAP（農業生産工程管理）

⇒「食品の安全」、「環境の保全」、「生産者の安全」等に関する取組状況を確認し、農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組。

（例：GLOBALG. A. P、J-GAP、K-GAP）

※2 機能性成分

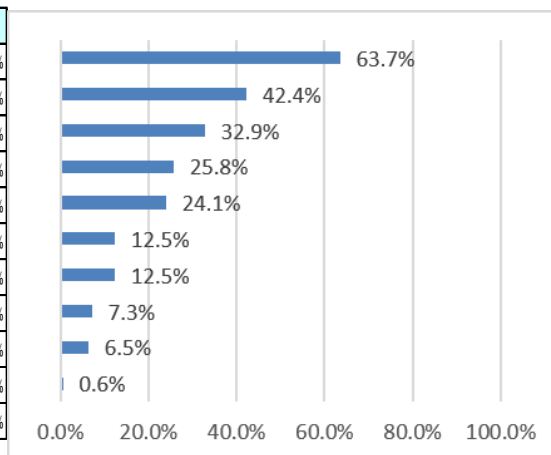
⇒適量摂取することで健康増進に効果があるとされる成分。

（例：食物繊維、ポリフェノール、カロテン、リコピンなど）

問 2 0 農林水産業者等が製造に関わっている加工食品（小みかんジュースなど）を購入する際、どのような点を重視しますか。（3つまで）

「価格が適正である」が63.7%で最も多く、次いで「衛生管理や品質が信頼できる」が42.4%、「市内産の農林水産物が使われている」が32.9%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
価格が適正である	296	63.7%
衛生管理や品質が信頼できる	197	42.4%
市内産の農林水産物が使われている	153	32.9%
クチコミなどで評判が良い	120	25.8%
オーガニックや無添加などの特徴がある	112	24.1%
市内の事業者が製造している	58	12.5%
販売店が多く購入しやすい	58	12.5%
パッケージデザインがよい	34	7.3%
特にこだわりはない	30	6.5%
その他	3	0.6%
サンプル数	465	100.0%



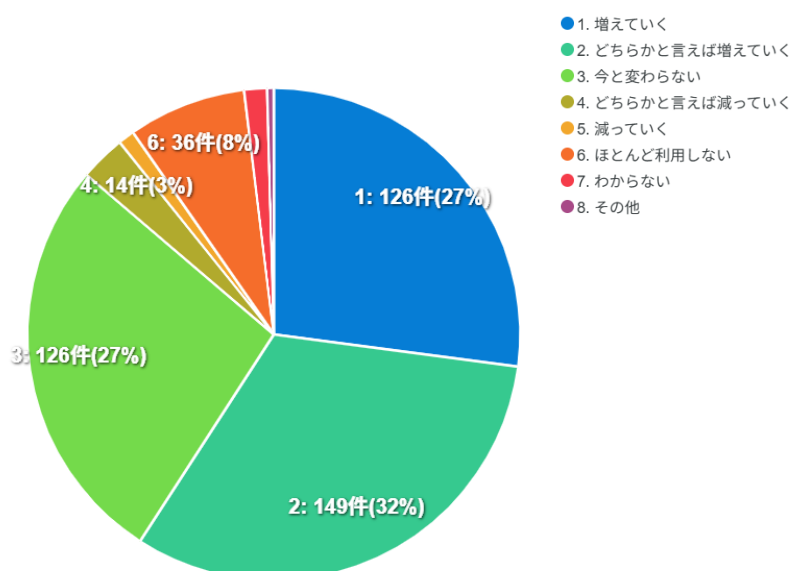
【その他の回答】

- 味
- おいしそう

問 2 1 あなたの普段の食事において、お惣菜や冷凍食品、カット野菜などを利用する頻度は今後どうなっていくと思いますか。（ひとつだけ）

「増えていく（27.1%）」と「どちらかと言えば増えていく（32.0%）」を合わせた『増えていく』が59.1%、「減っていく（1.1%）」と「どちらかと言えば減っていく（3.0%）」を合わせた『減っていく』が4.1%、「今と変わらない」が27.1%となっています。

選択肢	回答数	割合
増えていく	126	27.1%
どちらかと言えば増えていく	149	32.0%
今と変わらない	126	27.1%
どちらかと言えば減っていく	14	3.0%
減っていく	5	1.1%
ほとんど利用しない	36	7.7%
わからない	7	1.5%
その他	2	0.4%
サンプル数	465	100.0%



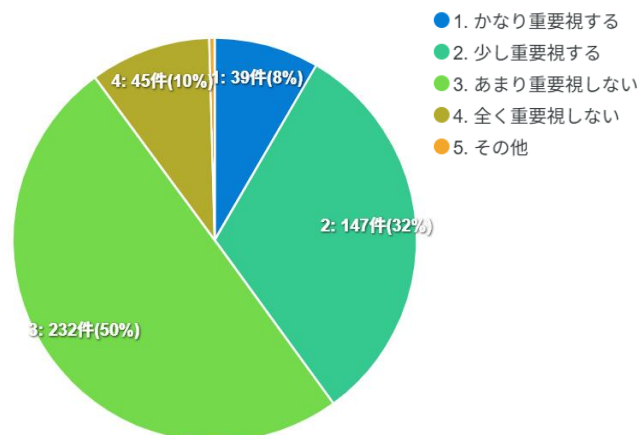
【その他の回答】

- 夏場はお弁当が痛まないようにあえて冷凍した食材、冷凍食品を利用している。必要最低限以上は購入したくない

問 2 2 外食時の飲食店を選ぶ際に、地元産の食材を利用していることをどれくらい重要視しますか。(ひとつだけ)

「かなり重要視する (8.4%)」と「少し重要視する (31.6%)」を合わせた『重要視する』が 40.0%、「あまり重要視しない (49.9%)」と「全く重要視しない (9.7%)」を合わせた『重要視しない』が 59.6%となっています。

選択肢	回答数	割合
かなり重要視する	39	8.4%
少し重要視する	147	31.6%
あまり重要視しない	232	49.9%
全く重要視しない	45	9.7%
その他	2	0.4%
サンプル数	465	100.0%



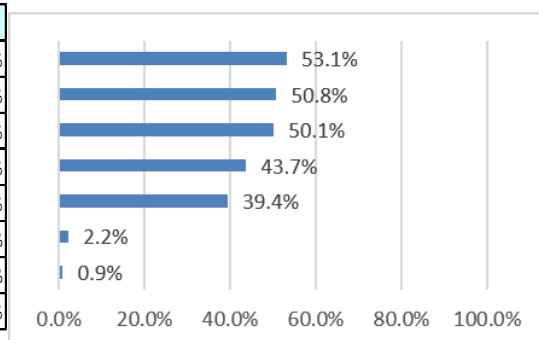
【その他の回答】

- 地元産食材を使っているお店を選びたいですが、それを入店前に知る術がない事が多いです

問 2 3 市内産の農林水産物が消費者に購入されるためには、どのような取組が重要だと思いますか。(3つまで)

「地域ならではの特産物の生産」が 53.1%で最も多く、次いで「市内産とすぐに分かる表示」が 50.8%、「安全・安心に向けた取組」が 50.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
地域ならではの特産物の生産	247	53.1%
市内産とすぐに分かる表示	236	50.8%
安全・安心に向けた取組	233	50.1%
イベント等によるPR	203	43.7%
販売店の増加	183	39.4%
その他	10	2.2%
わからない・意見なし	4	0.9%
サンプル数	465	100.0%



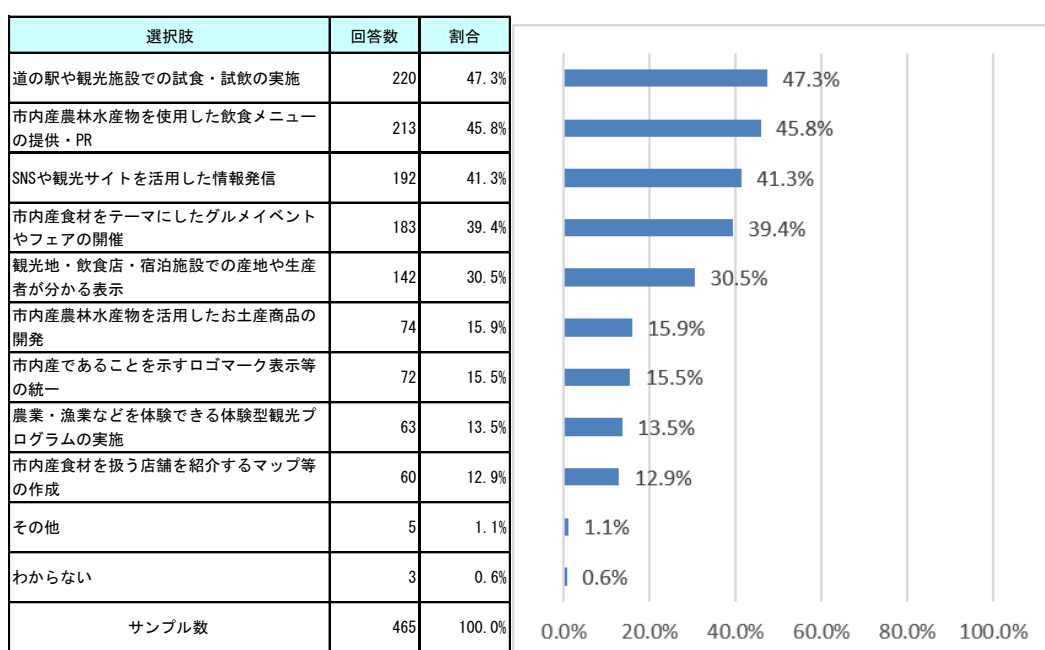
【その他の回答】

- 金額 ●どのような特徴があるか分かりやすく表記
- 市内産の物が購入出来る価値、そのものおいしいという価値は市内に住んでいると見えません。県外から引っ越して来たので、その価値を感じて購入しています。
- テレビ…ラジオでのしっかりした告知
- 1 番売れるには中途半端なブランドよりも価格と量であると思う。国産>県内産>市内産の様に取り敢えず国産で有れば安心はする。規格が不統一であっても余程不格好でなければ構わないし、そもそも見栄えを良くと言う考えで生じる食品ロスが無駄であり、見栄えを気にするならばそれこそブランド物を求めれば良い。一般家庭は食費にそれ程余裕はない。

- なぜ地産地消が必要か、を子どもから大人までに伝えること。地元での経済活動が税収、雇用、活気の創出につながる、買い物は応援したい企業への投票という意識を持つこと。
- こだわりや知識など目を引くものや得るものがあればあえてそちらを買う
- 新鮮で価格にお得感があるとうれしい

問 2 4 観光客に市内産農林水産物を認知してもらうためには、どのような取組が有効だと思いますか。（3つまで）

「道の駅や観光施設での試食・試飲の実施」が 47.3%で最も多く、次いで「市内産農林水産物を使用した試食メニューの提供・PR」が 45.8%、「SNSや観光サイトを活用した情報発信」が 41.3%の順となっています。



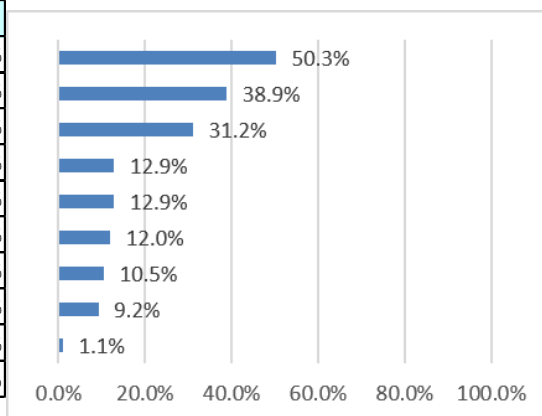
【その他の回答】

- 告知する広告費を省いて、安くする。高騰還元など受け入れやすい形か何かを選んで安い理由だけ示す。年単位の期間限定を伝える。インスタとかで、上げてくれたら先着 100 名に 1 つプレゼントなど。
- 旅行シーズン等に他県での鹿児島観光 PRCM を流す。まずは鹿児島に行こうと思わなければ意味がない。中途半端なブランドでは記憶に残らない黒豚は鹿児島！レベルの圧倒的なブランド力が必要
- 子が産まれて初めて産地を気にするようになりました。子育てイベント一緒に試食会などしてくれると意識が高くなります。
- ダイナミックな取り組み

**問 2 5 農林水産業に対し、現在関わっていること、または今後関わりたいと思うことは何ですか。
(3つまで)**

「市内産の農林水産物を積極的に購入する」が 50.3%で最も多く、ついで「イベント等で作業体験に参加する」が 38.9%、「趣味や余暇の過ごし方として関わる」が 31.2%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
市内産の農林水産物を積極的に購入する	234	50.3%
イベント等で作業体験に参加する	181	38.9%
趣味や余暇の過ごし方として関わる	145	31.2%
アルバイトなどで短期的に関わる	60	12.9%
副業や家業手伝いとして長期的に関わる	60	12.9%
関わるができると思わない	56	12.0%
仕事として関わる	49	10.5%
作業ボランティアとして関わる	43	9.2%
その他	5	1.1%
サンプル数	465	100.0%



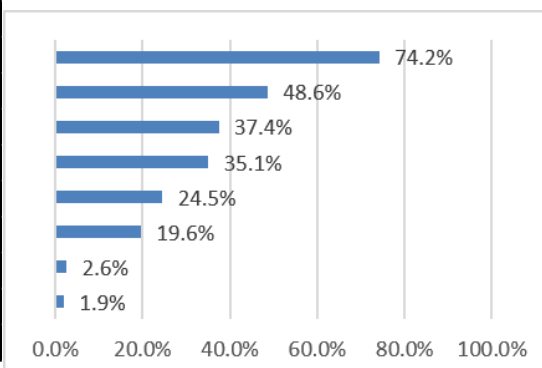
【その他の回答】

- 障害福祉の事業所で野菜の袋詰めなど簡単な軽作業の仕事を請け負う
- 大学の講義などで、実際に農業に携わっている方のお話を聞いているので少しは関わっていると思うが、農林水産業と聞くと、どうしても大変・収入が安定しない・天候に左右されるというイメージがあるので、現時点では副業やアルバイトも含め関わろうとは考えていない。
- 子育てにおいて子も参加できるイベントがあればいいなと思う
- 妻の実家の農業を手伝って農産物を分けてもらいそれを食べていく。

**問 2 6 農林水産業に仕事として携わる人を増やすために、どのような取組が必要だと思いますか。
(3つまで)**

「就業初期の収入の安定化への支援」が 74.2%で最も多く、次いで「仕事としての魅力の発信」が 48.6%、「研修制度の充実」が 37.4%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
就業初期の収入の安定化への支援	345	74.2%
仕事としての魅力の発信	226	48.6%
研修制度の充実	174	37.4%
就業に必要な施設などの導入への支援	163	35.1%
作業体験機会の充実	114	24.5%
他産業や大学との連携	91	19.6%
わからない	12	2.6%
その他	9	1.9%
サンプル数	465	100.0%



【その他の回答】

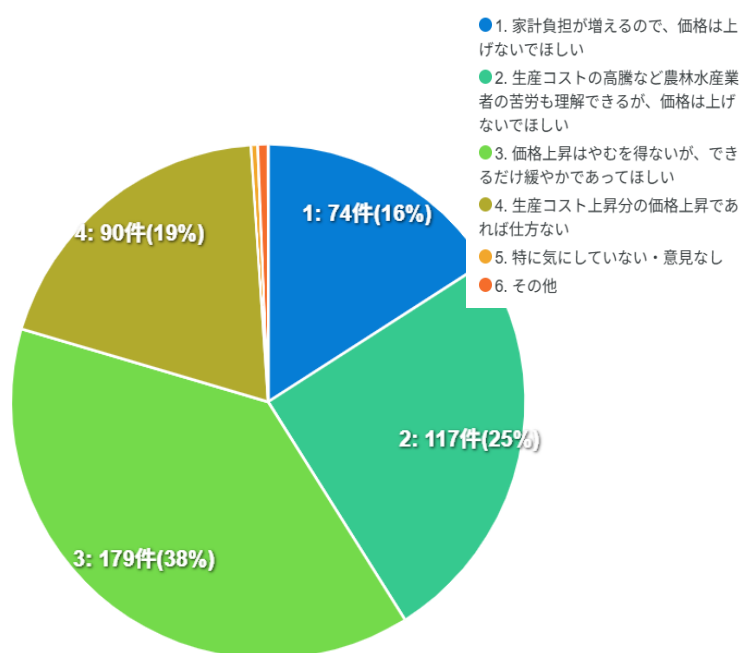
- 仕事としての社会的意義や必要性を知れる機会が広く周知される機会
- 子どもたちが気軽に体験できることが大事だと

- 基幹産業として当たり前の生活ができる収入。補助金ありきでない稼げる仕事としての確立。細かくは記載文字数不足
- 育てるものによっては、大きな機会を使用したり、スマート農業を導入したりすることができるように国や市が支援する。（一人の農家を対象にではなく、その地域であつたり周りの農家もいれたりする。）
- 農林水産だと、街から勤務すると勤務地が遠くなるイメージがあります。みんな住んでいるところから通勤が可能になる勤務時間とかあるのかなと疑問に思います。
- 個人的に休みがないというイメージがあるので、その改善
- 魅力的な施策。こんな分かりにくく、恣意的なアンケートをしていたら駄目。
- 個人経営による経済、体力的負担の軽減がないと仕事として始める人は増えないかと

問 2 7 農林水産物の価格上昇について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。
(ひとつだけ)

「家計負担が増えるので、価格は上げないでほしい（15.9%）」と「生産コストの高騰など農林水産業者の苦労も理解できるが、価格は上げないでほしい（25.2%）」を合わせた『価格は上げないでほしい』が 41.1%、「価格上昇はやむを得ないが、できるだけ緩やかであってほしい（38.5%）」と「生産コスト上昇分の価格上昇であれば仕方ない（19.4%）」を合わせた『価格上昇は仕方ない』が 57.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
家計負担が増えるので、価格は上げないでほしい	74	15.9%
生産コストの高騰など農林水産業者の苦労も理解できるが、価格は上げないでほしい	117	25.2%
価格上昇はやむを得ないが、できるだけ緩やかであってほしい	179	38.5%
生産コスト上昇分の価格上昇であれば仕方ない	90	19.4%
特に気にしていない・意見なし	2	0.4%
その他	3	0.6%
サンプル数	465	100.0%



【その他の回答】

- 本来の野菜や肉の味が良いものを購入する人も多い。鶏は放牧。野菜はなるべく完熟するや肥料をやりすぎない。
- 仲介に入っている不要なコストをいかに省けるか

Ⅳ 食品ロスの削減について

1 調査の目的

本市では、鹿児島市食品ロス（※）削減推進計画の基本方針である、「1. 食品ロス削減への理解を深める、2. 主体的に食品ロス削減を実施する、3. 食品ロス削減の協働・連携の仕組みを作る」に基づき、市民（消費者）・事業者・行政等の多様な主体が協働・連携し、社会全体として食品ロスの削減を推進しています。

今回、同計画を改訂するにあたり、市民の皆様方の食品ロス削減の取組状況について参考とするため、アンケート調査を実施しました。

（※）食品ロス：まだ食べることができる食品を捨ててしまうこと

2 調査結果を受けて担当課（資源政策課）からのコメント

市民の皆様方の食品ロス削減の取組状況について、多くのご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

市食品ロス削減推進計画内では、市民（消費者）の取組に関する評価指標として令和13年度までに「食品ロス削減に取り組む市民（消費者）の割合」について95%を達成する目標を掲げております。

同計画策定時に実施した市民アンケートでは88.8%でしたが、今回は90.1%と、以前に比べ食品ロス削減に取り組む人が増えております。

引き続き、目標達成に向け、皆様方が食品ロス削減に取り組めるよう普及啓発に取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、売れ残りそうな食品などを小売店等が出品して、その食品を利用者がお得に購入できるマッチングサービス「かごしまタベスケ」について、「知らない」と回答した人が83.0%でした。当サービスの魅力である、新たなお店を発見することができること、お得に商品が購入できることや気軽に食品ロス削減に貢献できることなどの広報を行い、皆様への周知を図る必要があることが分かりました。

今回の調査結果を参考とし、食品ロスの削減について意識啓発を図るとともに、市民（消費者）・事業者・行政等の多様な主体が協働・連携し、社会全体として食品ロスの削減を推進してまいります。

3 調査結果

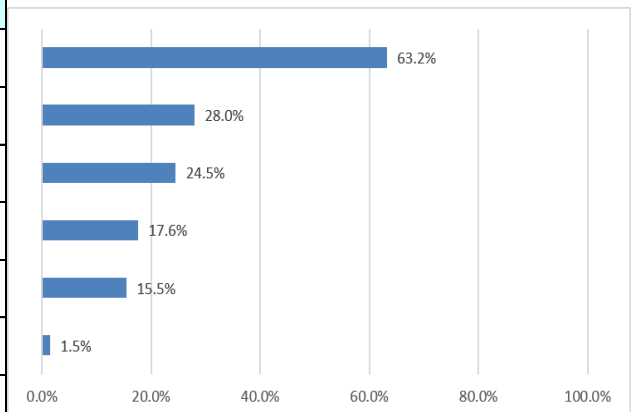
問29 ご家庭から、どのような食品ロスが発生していますか。(当てはまるものすべて)

「未使用食品（賞味期限※1切れ食品、消費期限※2切れ食品、未開封の食材など）」が63.2%で一番多く、「食べ残し（作りすぎ）」が28.0%、「食べ残し（食材の好き嫌い、苦手な味付け）」が24.5%の順となっています。

※1 賞味期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に、この「年月日」まで、「品質が変わらずに美味しく食べられる期限」のこと。

※2 消費期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に、この「年月日」まで、「安全に食べられる期限」のこと。

選択肢	回答数	割合
未使用食品（賞味期限切れ食品、消費期限切れ食品、未開封の食材など）	294	63.2%
食べ残し（作りすぎ）	130	28.0%
食べ残し（食材の好き嫌い、苦手な味付け）	114	24.5%
過剰除去（調理の時に食べられる部分まで取り除くこと）	82	17.6%
全く発生していない	72	15.5%
その他	7	1.5%
サンプル数	465	100.0%



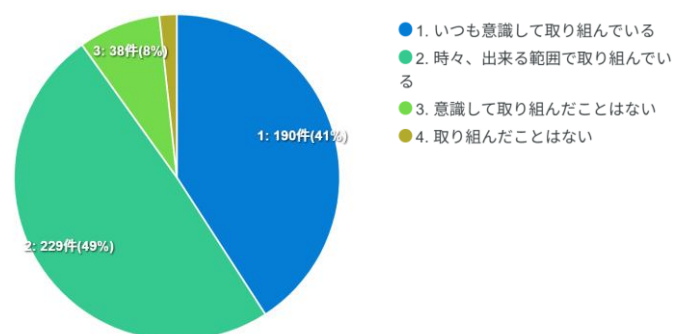
【その他の回答】

- 全くとまではいかないが0に近い
- 主に野菜を使いきれないまま痛めてしまうことがある
- 買ってきてそのまま冷凍するようにしてるので、味が合わない、等を除いて
- ヘタ等の食用に適さない部分
- 他人からのもらい物
- 使いきれず、傷んだり、カビが生えたりしたもの

問30 ご家庭で、食品ロスを減らす取組をしていますか。(ひとつだけ)

「いつも意識して取り組んでいる（40.9%）」と「時々、出来る範囲で取り組んでいる（49.2%）」を合わせた『取り組んでいる』が90.1%で、「意識して取り組んだことはない（8.2%）」と「取り組んだことはない（1.7%）」を合わせた『取り組んだことはない』が9.9%となっています。

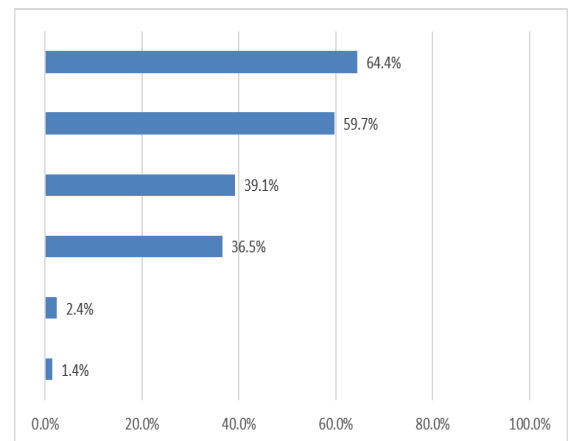
選択肢	回答数	割合
いつも意識して取り組んでいる	190	40.9%
時々、出来る範囲で取り組んでいる	229	49.2%
意識して取り組んだことはない	38	8.2%
取り組んだことはない	8	1.7%
サンプル数	465	100.0%



問 3 1 問 3 0 で、「いつも意識して取り組んでいる」、「時々、出来る範囲で取り組んでいる」を選択した方におたずねします。どのような取組をしていますか。（当てはまるものすべて）

「食材を捨てることがないよう、調理の仕方や献立を工夫している」が 64.4%で一番多く、「食べ残しが出ないように心がけて食事をしている」が 59.7%、「冷蔵庫の中の食品を分かりやすく整理している」が 39.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
食材を捨てることがないよう、調理の仕方や献立を工夫している	270	64.4%
食べ残しが出ないように心がけて食事をしている	250	59.7%
冷蔵庫の中の食品を分かりやすく整理している	164	39.1%
こまめに買い物をして、適切な量を購入している	153	36.5%
余った食材は、フードドライブ※を行っているスーパーマーケットなどに寄付している	10	2.4%
その他	6	1.4%
サンプル数	419	100.0%



※フードドライブ：ご家庭にある食べきれない食品（例：缶詰、レトルト食品）を持ち寄る寄付活動

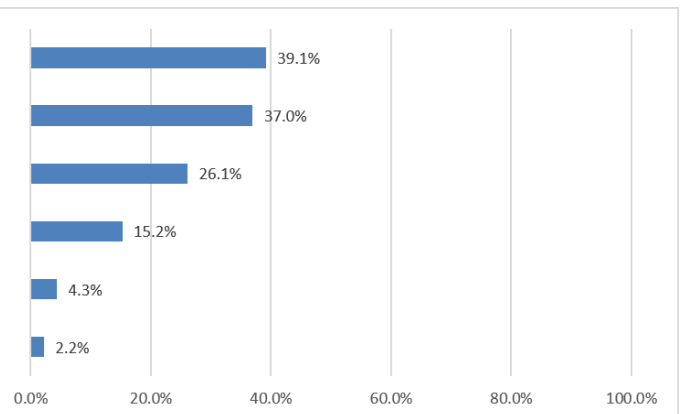
【その他の回答】

- 残ったら冷凍
- できる限り冷凍保存して、保存できる期間を長くしている。
- 家族が多いため余ることはない
- 煮物やカレーなどロスが出にくい献立設計
- 安いからといって食品を買い過ぎないように意識している
- 食べ残したおかずをリメイク（というのか分からないが、南極の調理師がやっている方法を真似て）して違うおかずに作り替えて出す

問32 問30で、「意識して取り組んだことはない」、「取り組んだことはない」を選択した方におたずねします。その理由は何ですか。（当てはまるものすべて）

「面倒に感じる」が39.1%で一番多く、「食品ロスが発生していない」が37.0%、「問題があると感じていない」が26.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
面倒に感じる	18	39.1%
食品ロスが発生していない	17	37.0%
問題があると感じていない	12	26.1%
ごみが減ると思わない	7	15.2%
その他	2	4.3%
もったいないと思わない	1	2.2%
サンプル数	46	100.0%



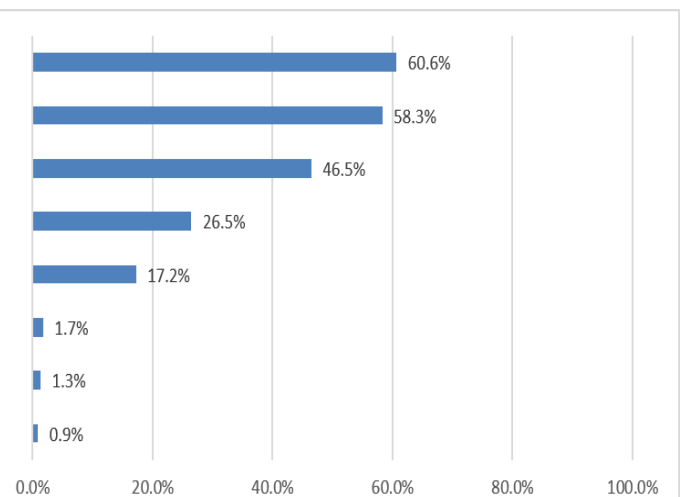
【その他の回答】

- 忙しくて、食材のことを忘れてしまうから

問33 食材（肉・魚や野菜など）を購入するときに、意識していることや取り組んでいることは何ですか。（当てはまるものすべて）

「賞味・消費期限を意識した上で購入する」が60.6%で一番多く、「買い物前に、食材の在庫をチェックする」が58.3%、「買い物前に、献立を考え、購入する食材の見当をつけておく」が46.5%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
賞味・消費期限を意識した上で購入する	282	60.6%
買い物前に、食材の在庫をチェックする	271	58.3%
買い物前に、献立を考え、購入する食材の見当をつけておく	216	46.5%
買い過ぎないように少量パック・ばら売り商品等を選ぶ	123	26.5%
買い過ぎないようにまとめ買いを避け、その都度、買い物に行く	80	17.2%
特に意識することや取り組んでいることはない	8	1.7%
その他	6	1.3%
食材を購入することは（ほとんど）ない	4	0.9%
サンプル数	465	100.0%



【その他の回答】

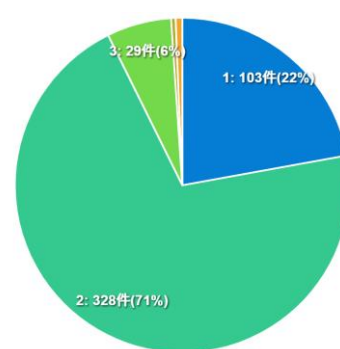
- 買ったらず冷凍
- 大量購入し冷凍保存、使う分だけ小分けし消費。無くなりそうなら再購入しストックする事で常に循環する様にしている。

- 早めに冷凍や加熱処理をして鮮度を保つようにしています。
- 購入日が消費期限でも当日すぐ冷凍している
- まとめて購入して、冷凍してる

問3 4 賞味・消費期限が迫っている食材（肉・魚や野菜など）や食品の購入について、判断の目安を教えてください。（ひとつだけ）

「すぐに使う場合などは、値引き等がなくても（進んで）購入する（22.2%）」と「値引き等をしていれば購入する（70.5%）」を合わせた『購入する』が 92.7%で、「期限が迫っているものは購入しない」が 6.2%となっています。

選択肢	回答数	割合
すぐに使う場合などは、値引き等がなくても（進んで）購入する	103	22.2%
値引き等をしていれば購入する	328	70.5%
期限が迫っているものは購入しない	29	6.2%
わからない、購入することがない	2	0.4%
その他	3	0.6%
サンプル数	465	100.0%



- 1. すぐに使う場合などは、値引き等がなくても（進んで）購入する
- 2. 値引き等をしていれば購入する
- 3. 期限が迫っているものは購入しない
- 4. わからない、購入することがない
- 5. その他

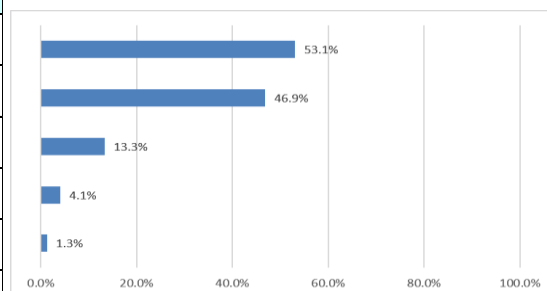
【その他の回答】

- 直ぐ使用する、冷凍出来るなら購入する。値引きなら尚可
- 時と場合によります。

問 3 5 調理するときに、意識していることや取り組んでいることは何ですか。（当てはまるものすべて）

「作りすぎに注意して調理する」が 53.1%で一番多く、「野菜の葉や茎などの過剰な食材の除去に注意して調理する」が 46.9%、「特に意識することや取り組んでいることはない」が 13.3%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
作りすぎに注意して調理する	247	53.1%
野菜の葉や茎などの過剰な食材の除去に注意して調理する	218	46.9%
特に意識することや取り組んでいることはない	62	13.3%
調理することは（ほとんど）ない（食事は購入した弁当や惣菜が多い）	19	4.1%
その他	6	1.3%
サンプル数	465	100.0%



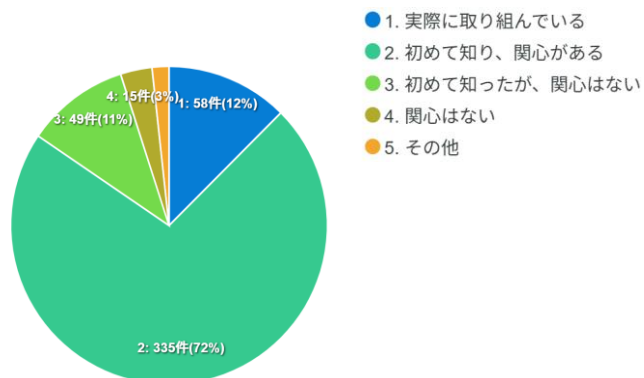
【その他の回答】

- 野菜とかは早めに切って冷凍する
- 傷みやすい野菜を中心に献立を考える
- 弁当のおかずなどに転用も可能か？冷凍、冷蔵保存は可能か？
- 冷凍ストックできるものはしている
- 冷凍する

問36 食品ロスの削減につながる「m o t t E C O※」について、当てはまるものを選択してください。（ひとつだけ）

「実際に取り組んでいる」が12.5%、「初めて知り、関心がある」が72.0%、「初めて知ったが、関心はない（10.5%）」と「関心はない（3.2%）」を合わせた『関心はない』が13.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
実際に取り組んでいる	58	12.5%
初めて知り、関心がある	335	72.0%
初めて知ったが、関心はない	49	10.5%
関心はない	15	3.2%
その他	8	1.7%
サンプル数	465	100.0%



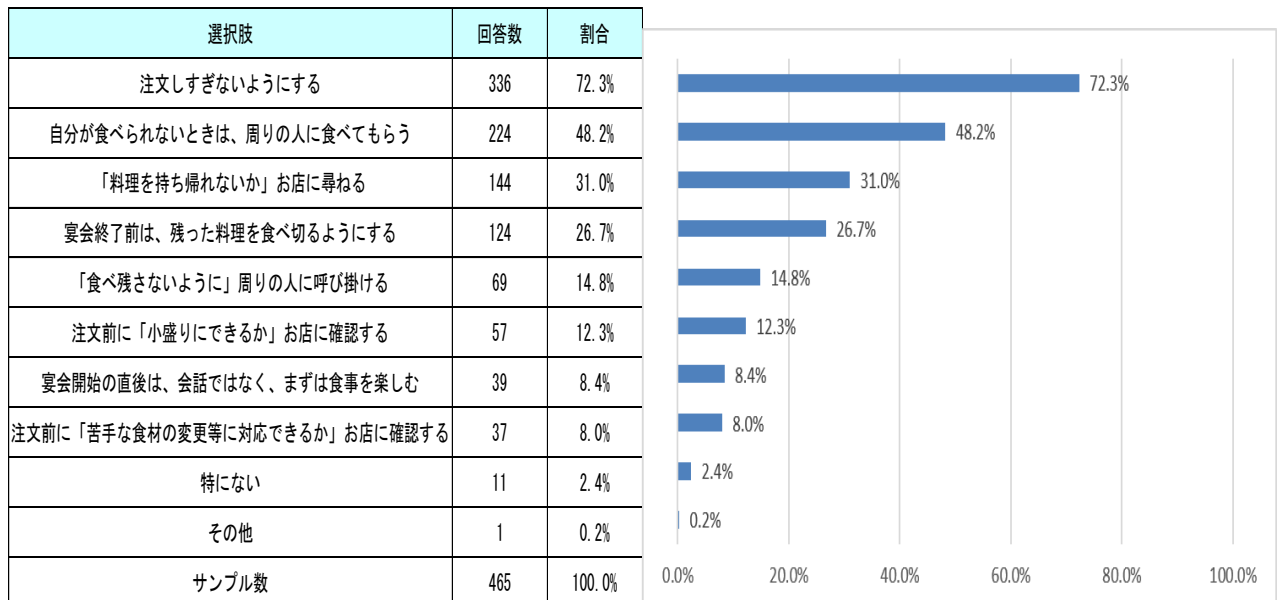
※m o t t E C O：飲食店で食べきれなかった料理を、お客様が自己責任で持ち帰ることで、食品ロスを削減する環境省が提唱する取組の愛称

【その他の回答】

- お店で案内があれば持帰りやすい
- 持ち帰ることができる店舗ではしているが、衛生的に叶わない店舗では食べ残しをしている。
- そもそも食べ切らない量を頼むことが無い
- 知ってはいるが、取り組めたことはない
- 聞いたことがあるが、まだ抵抗があるので、実際に取り組んだことはない。飲食店で食事をする際には、なるべく食べ残しが発生しないようによく考えて注文している。
- 存じ上げているが、対応している飲食店を利用することが少なく、利用した際にも食べ切ることができる量を考えて注文しているため利用したことはない。
- 知ってはいたが利用したことはない

問 3 7 ご家族との外出や職場の宴会などのときに、食べ残しを減らすために取り組んでいることはありますか。(当てはまるものすべて)

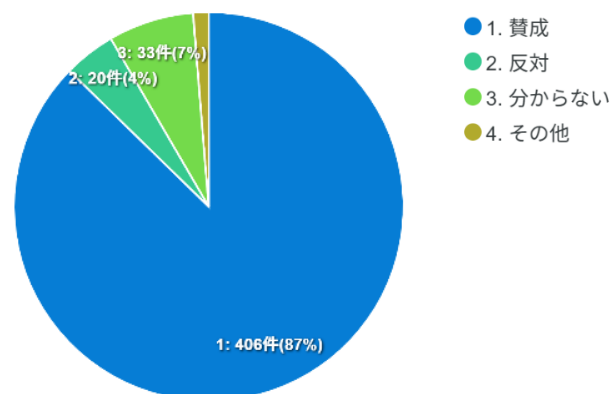
「注文しすぎないようにする」が 72.3%で一番多く、「自分が食べられないときは、周りの人に食べてもらう」が 48.2%、「料理を持ち帰れないか」お店に尋ねる」が 31.0%の順となっています。



問 3 8 外出時に食べきれなかった料理の持ち帰りについて、賛成ですか、反対ですか。(ひとつだけ)

「賛成」が 87.3%、「反対」が 4.3%、「分からない」が 7.1%となっています。

選択肢	回答数	割合
賛成	406	87.3%
反対	20	4.3%
分からない	33	7.1%
その他	6	1.3%
サンプル数	465	100.0%



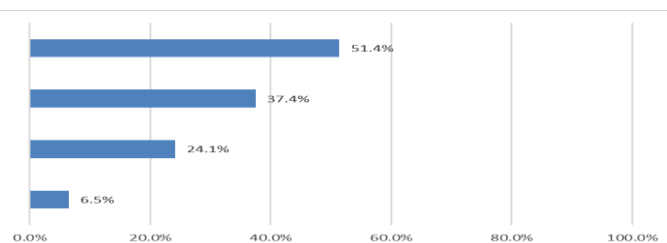
【その他の回答】

- 場合による。衛生面から持ち帰りできないことも多い
- 持ち帰る料理によるのかな、と。生ものはやはり避けるべきかな、と思ったり、真夏など季節によっては衛生的に心配もあります。
- その料理によりまずし、完全自己責任をちゃんと理解してる人限定であれば賛成です。
- その日のうちにお召し上がりくださいが必要
- 持ち帰ることについては賛成だが、持ち帰る容器などのゴミが増えるなど環境問題にも配慮しないといけないため、難しいところではある。

問 3 9 食品ロスの削減に関する言葉について、知っているものがあれば教えてください。（いくつでも）

「フードバンク※2」が 51.4%で一番多く、「いずれも知らない」が 37.4%、「フードドライブ」が 24.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
フードバンク※2	239	51.4%
いずれも知らない	174	37.4%
フードドライブ	112	24.1%
九州食べ切り協力店※1	30	6.5%
サンプル数	465	100.0%



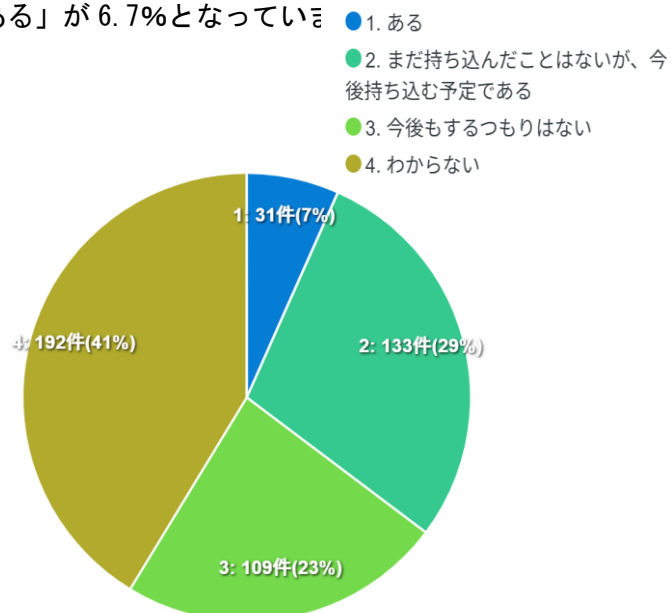
※1 九州食べきり協力店：九州7県で登録されており、県から交付されたステッカー等の啓発物を店舗内に掲示して食品ロスの削減をPRしています。

※2 フードバンク：包装の印字ミスや賞味期限が近いなど、品質には問題ないが、通常の販売が困難な食品・食材を企業等から譲り受け、福祉団体等は無償提供する活動又はこれに取り組む団体

問 4 0 鹿児島市内で活動するフードバンク団体や、ご家庭にある食べ切れない食品の回収場所を設置し、フードドライブに協力するスーパーマーケットに持ち込んだことはありますか。（ひとつだけ）

「わからない」が 41.3%で一番多く、「まだ持ち込んだことはないが、今後持ち込む予定である」が 28.6%、「今後もするつもりはない」が 23.4%、「ある」が 6.7%となっています。

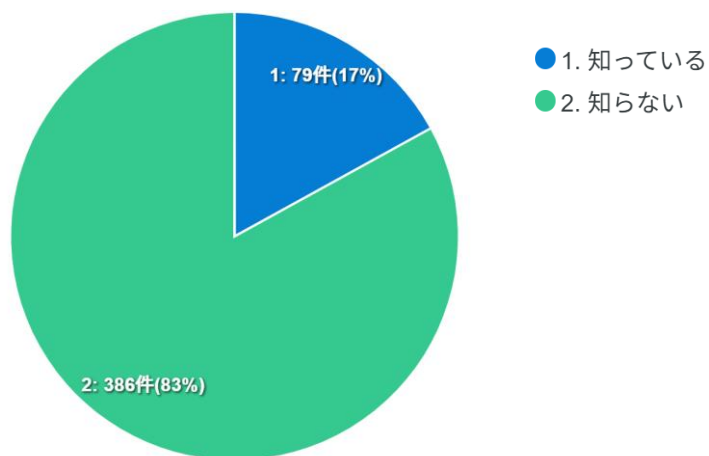
選択肢	回答数	割合
ある	31	6.7%
まだ持ち込んだことはないが、今後持ち込む予定である	133	28.6%
今後もするつもりはない	109	23.4%
わからない	192	41.3%
サンプル数	465	100.0%



問４１ フードシェアリングサービス「かごしまタベスケ※」について知っていますか。（ひとつだけ）

「知っている」が17.0%、「知らない」が83.0%となっています。

選択肢	回答数	割合
知っている	79	17.0%
知らない	386	83.0%
サンプル数	465	100.0%



※かごしまタベスケ：店頭で売り切れない食品等を、スマートフォンのアプリなどで消費者に案内し、割引価格で提供することにより、食品の廃棄をなくそうとする取組。食品ロスの削減だけでなく、事業者には廃棄コストの削減等、消費者には低価格での購入等のメリットがある。

問４２ 問４１で「知っている」を選んだ方にお尋ねします。「かごしまタベスケ」の魅力は何ですか。（当てはまるものすべて）

「食品ロス削減に貢献できる」が69.6%で一番多く、「安く食品を購入できる」が67.1%、「新しいお店を知ることができる」が24.1%の順となっています。

選択肢	回答数	割合
食品ロス削減に貢献できる	55	69.6%
安く食品を購入できる	53	67.1%
新しいお店を知ることができる	19	24.1%
内容までは知らない	4	5.1%
サンプル数	79	100.0%

